

静岡県内市町の地域コミュニティ・協働事例

裾野市「千福が丘町内会交通施策プロジェクト」

町内会が考える「自分たちの10年後の交通手段」

裾野市「千福が丘町内会」は、世帯数約1,000世帯・人口約2,600人の住宅地です。新興住宅地として開発され、閑静で自然豊かな自然に加え、裾野駅までバスで約20分という利便性のある地域として多くの方が移り住みました。しかし、いっせいに同じ世代が移り住んだため、今、町内会では、人口2,600人中、700人が高齢者、今後も高齢者が増え続けるという状態になっています。

そこで、27年度よりワークショップを重ね、「千福が丘の良いところ・気になるところ」から始まり、5つの課題を深堀して、プロジェクトチームを作り課題解決に向けて検討してきました。今回は、その中から、「交通施策プロジェクト説明会」の様子をお知らせします！

この説明会の大きな特長は、**町内会が主催**ということです。市役所の関係課は、あくまでオブザーバー。話を進めていたのは8割が町内会の交通プロジェクトの方々でした。

この説明会の大きなポイントは、**路線バス撤退の可能性**です。現状では、なかなか利用者数が伸びず赤字続きの路線バスを、どのように維持・または変化させていくのか。

昨年度から検討してきた5つの案について、**プロジェクトの方々**が自分たちが**町内会住民**に向けて説明会を開催しているのです。



交通プロジェクトのメンバーが、案について説明中。住民のみなさんも真剣に聞いています。「運行を希望する時間帯と実際の運行時刻のズレ」や、市のコミュニティバスでは対応が難しいこと、民間路線バスの運転手の状況についても調べられており、何度も検討されてきたことがよくわかりました。

提示された案は、**住民の皆さんに「負担金」が発生するもの**がほとんどです。町内会では、「負担金」が発生する事業を扱うのが初めてです。総会における「議決の仕方」についても検討したいということで、町内会長から説明がありました。

「(千福が丘の状況から考えると)、今後は、皆さんに負担をかける内容の議案が多くなっていく。多くの人に考えてもらいたい、(負担は発生するが)と**にかくまずはやらせてください**」

説明会は13回実施し、年内に議決後、議論をしながら具体的に進めるそうです。



住民に説明する町内会長さん

編集後記

プロジェクトのみなさんの真摯な姿勢が伝わってきました。今後の展開に注目です！